



表紙/犬ぞりレースで疾走する白山副院長と愛犬

理 念

私たちは、赤十字の理想とする人道・博愛の精神にもとづいて、よりよい医療を提供し、皆様に信頼される病院をめざしています。

基本方針

1. 地域医療の推進と救急医療の充実に努めます。
2. 患者様の権利を守り、その意思を尊重した医療を行います。
3. 地域の皆様の健康増進と疾病予防に努めます。
4. 清潔、快適で、やすらぎのある環境づくりに努めます。
5. 常に研鑽を重ね、資質・技術の向上に努めます。

Pick Up

- ・地域感染管理研修会 開催報告
- ・「手軽に検査チケット」開始及び販売機設置について
- ・2025年プラン策定ワークショップについて



日本赤十字社 清水赤十字病院

Japanese Red Cross Society

〒089-0195 北海道上川郡清水町南2条2丁目

TEL0156-62-2513 FAX0156-62-4460

URL <http://www.shimizu.jrc.or.jp/> Mail rcssoumu@shimizu.jrc.or.jp





年頭のご挨拶

～変化の年を迎えて～

病院長 藤城 貴教

みなさん新年明けましておめでとうございます。

“お正月気分”という言葉も今は昔、世界もそして日本も情勢は気ぜわしく、そしてめまぐるしく変化しています。ここ清水町においては昨年10月末に台風被害を受けた日勝峠が14ヶ月振りに再開通したのが大きな変化で、国道38号線にかかる橋梁復旧工事も着々と進んでおります。また日本一の食糧基地“十勝”的農業生産高は3300億円を超える成長を続け、観光地としてもより多くの外国人で賑わい世界はますます狭くなっています。当院においても外国人の受診者が増えつつあり、その対応を急がなければならぬ状況です。そもそも我々ですらこの地の先住者ではなく、明治維新以降あらたに移り住んだ人々の末裔です、我らが父祖は先住者との言語的な意思疎通や交渉に努力を重ね、自身が変化しながらこの地に適応してきたことは想像に難くありません。現代の我々にも同じ事が求められているのです。

私共が提供する“医療”は常に新しい知見や技術を入れることにより成長していくものです。変化する医療ニーズや制度にも柔軟で迅速な対応が求められ、その遅れは提供する医療サービスの低下を招くだけではなく、医療機関としての存在意義を薄れさせることになります。移りゆく時代において現状維持は後退に等しく、沈黙に似ています。今年は診療報酬と介護報酬の同時改定の年で医療と福祉の形がまた少しずつ変わりますが、今後も現状分析からこの地の医療のあるべき姿を捉え、将来にわたって地域医療を提供していくことが我々の一つの使命です。そして赤十字組織として、施設間の連携や地域の災害救護体制の向上を担っていることも忘れてはいけません。

日本ではいま「働き方改革」が求められています。長時間労働が職場への忠誠心や美德と考えられていた時代とは違い、現代においては仕事の質の向上と効率化それにワークライフバランスの改善が課題になっています。ただ、“理想の職場”や“働きやすい職場”はどこにあるわけではなく、自らが主体的に考え変化を加えて創っていくものです。人間の寿命は年々延長し、近い将来“人生100年時代”がやってきますが、この長い人生をどう使うかは自分自身の選択に任されています。少なくとも70歳頃まで正規労働者として活躍するに違いありませんから、バランス感覚は人生設計に欠くことのできないものです。昨年行った院内ワークショップで定めた清水赤十字病院の“2025プラン”を羅針盤として、自らの働き方改革を進める始まりの年にしていただきたいと思います。

私たちの郷土が北海道と命名されて150年目となる本年、命名者である松浦武四郎も足跡を残したこの土地で我々の変化と責任感が問われています。





事務部長 林 裕一



医療を取り巻く環境が大きく変わる激動の年がスタートしました。誰もがよく知る日本昔話「昔ある所にお爺さんとお婆さんがいました…」の長閑な世界は2025年問題として国家の課題におきかわり、公的病院である当院にも一気に2025年問題の怒涛が押し寄せました。

今後、益々質の高い医療が求められます。質の高い医療を提供し病院を発展させるためには職員ひとりひとりが現状をしっかりと把握し、何をすべきか先を読み行動する必要があると思います。時の流れ、変化のスピードは非常に早く、時には仕事を止めず「即断即決」が必要となることもあるでしょう。

私が新参者であるため感ずることなのかも知れませんが、当院には「古き良き時代」の風土が残っているように感じます。変化への即応が大事であると感じます。それができなければ、厳しい医療の世界では取り残されるどころか淘汰されることにつながるでしょう。一方、当院のような小さい屋根の下に職員が集まる組織だからこそできる事があると思います。職員間の距離が近く「協力・連携・意思決定しやすい環境」であるということだと思います。

それを実行するか、できるかは職員の意識ひとつとの問題であると思われます。

玄侑宗久(作家、僧侶)のエッセー「有為の奥山」を少しだけ引用、紹介させて頂きます。「効率と和合」編で奄美大島の日本古来「伴(とも)」という働き方が紹介されています。おなじ職種の人が集まれば確かに効率は上がるが、競争意識が強くなりすぎて和合の感覚は薄れる。誰もが入れ替わる「伴」の形だと、それぞれの仕事の苦悩も皆が理解し和合が保たれる。要は分業の程度の問題で、和合のコツは「ほどほどの分業で仕事をスムーズに」と締めくくられています。医療の現場は有資格者でなければという仕事が大半ではありますが、大変参考になる考え方だと思われます。



看護部長 佐藤 美恵子

一昨年の台風被害からすでに1年数か月が経過し、日勝峠の再開など明るいニュースがある一方で街の中では依然として被害が色濃く残っている現状の中、また新しい一年が始まりました。そのような中において、昨年7月に感染管理認定看護師の看護副部長が着任し看護部の体制も強化され、大変心強く思っています。私自身看護職となり昨年で40年目の大きな節目の年となりました。思い起こせば、布施川院長・吉田院長・小竹院長そして藤城院長と斎藤事務部長・小谷事務部長・上杉事務部長・藤本事務部長・三宅事務部長・瓦木事務部長・林事務部長とその時々の職員の皆様方と共に、地域の方々が安心して医療を受けられるよう、皆様の声に耳を傾け、看護師一人ひとりが目指す看護に向けて、質の高い看護実践を提供できるよう日々精進してまいりました。今年は、41年目の年となります。出逢いの瞬間を大切に、一人一人の相手の立場に立ち、あたたかな心と笑顔で常に患者さまの身近な存在として、信頼される看護を目指す年にしたいと強く思っています。皆様に信頼され続けられる病院でありますように、また、職員が専門職業人として活き活きと誇りを持って働き続けられますよう、創意工夫・知恵を結集して、多くの局面へ心ひとつに取組んでいきたいと思っております。

地域感染管理研修会を開催



～冬場の感染対策～

10月30日に、特別養護老人ホームせせらぎ荘様の計らいで、研修会をさせていただきました。認定看護師は、5年毎の資格更新があり、社会活動として今回の研修会を報告することができます。ありがとうございました。

研修会の内容については、現状やニーズも把握できないまま、標準予防策の手洗いと防護具の使い方・清掃と経路別予防策を中心に原稿を作りました。講演資料に関してはMSWのアドバイス、病棟看護師さんのかわいいイラストに助けていただきました。立派な会場に入ると、すでに大勢の方々がいることに驚き、意識の高さに感服いたしました。

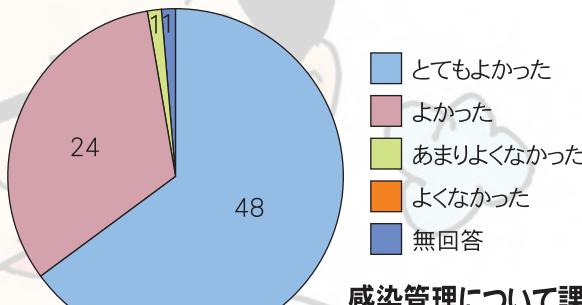
講話は、参加者の皆様の反応を感じつつ早口になりながら、何とか伝えたいことを話し終えましたが、時間を作って参加してくださった方々に対して効果的であったのか考え落ち込みました。アンケート結果が非常に気になりましたが、結果をみると、参加者の皆様の意識の高さを感じ、利用者さんの為に手洗いをするという内容が沢山書かれており、いつも利用者さんの事を考えているということを実感しました。



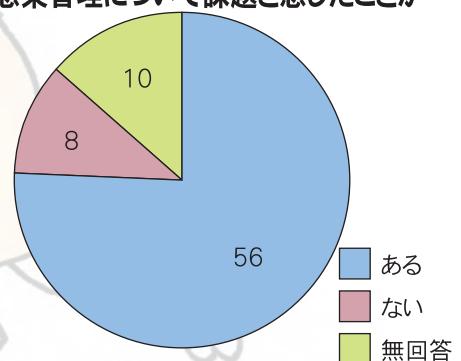
写真 講演する大沼まゆみ看護副部長

アンケート結果

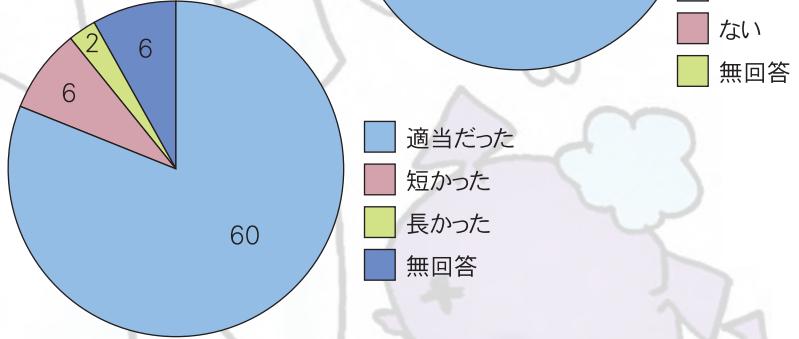
内容について



感染管理について課題と感じたことが



講座全体のボリュームについて



研修会後は、施設の職員の方から声をかけて頂き、嬉しく感じております。

冬本番！インフルエンザや胃腸炎などの感染症の発生が本格的になります。

利用者さん・患者さんはもとより、職員の方々も標準予防策・経路別予防策を実践し健康に過ごしましょう。

また、当院は何を聞いても答えてくれる優しく頼もしい職員ばかりです。お力になれることがありましたらいつでもご相談ください。

2025年プラン策定のための 院内ワークショップ開催



厚生労働省では、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、将来の医療提供体制の必要量を推計し定めた「地域医療構想」について、各都道府県では2017年3月までに策定を完了。さらに、区域ごとに「地域医療構想調整会議」が開催されており、公立病院では「新公立病院改革プラン」が策定され具体的な議論がなされているところです。

この度、日本赤十字社に対しても「公的医療機関等2025プラン」を策定して、「地域医療構想調整会議」における具体的な議論を進めるよう依頼がありました。

これを受け、当院においては当該プランを作成するため、各部門の代表者が出席し、KJ法等を用いたワークショップを行いました。議論の結果を基として当院の「公的医療機関等2025プラン」が完成。その主な内容を紹介します。

◎当地・当院の現状と課題

- ① 入院患者受療動向について、清水町外への患者流出率が高い
- ② 少子高齢化に伴う医療需要の変化に対する医療提供体制の検討
- ③ 救急告示病院として救急医療の提供体制の強化が不可欠
- ④ 手術室等の設備について地域の医師と共同利用等の検討
- ⑤ 早期退院・在宅医療への移行に向けた体制を強化し
「病院に行く時代から病院が行く時代」へのモデルチェンジ
- ⑥ 災害発生時の体制強化と地域防災センター等の設置

◎2025年に向けての計画

病床数について、現在の急性期50床（地域包括ケア病床12床含む）、慢性期42床の合計92床を基本に、地域医療構想調整会議の内容を下に、当院診療圏を踏まえた今後の病床機能について検討を加えながら、計画を作成・変更する。

◎その他の推進・強化事項

- ① 外国人患者診療
近隣町村のリゾート地には、年間を通じて外国人観光客が訪れ、観光中の体調不良により当院への受診が増加傾向にあることから、夜間・休日を問わず診療受入体制の強化に努める。
- ② 災害医療
当院は小規模病院でありながら、東日本大震災や熊本地震、平成28年台風10号災害等において、職員を被災地に派遣し救護活動を行っている。この経験を地域や学会等で発表し、対応策を多くの施設へ伝えるほか、赤十字の使命達成に努める。
- ③ 地域福祉活動
地域公開講座を開催し、医療や介護などの情報発信を行うほか、地域内で医療・福祉・介護の情報し、地域で医療・介護に従事する者のスキル向上を目的とした研修会を開催する。

「手軽に検査☆**チ**健診」を始めました

日頃、健康テーマにした番組をよくテレビで見かける機会がありますが、「この症状は自分と似てるな～」と思ったことはありませんか？でも病院に受診して待ち時間も長く、「面倒くさいな～」と遠ざかっていきますが、それでも身体が気になるあなたへ朗報です。飲食店にある食券を買うのと同じシステムで手軽に血液検査・検尿・ボディーチェックが出来る「手軽に検査チ健診」を1月10日より開始致しました。

なんと ワンコインの500円から検査が受けられ、予約や健康保険証も必要ありません。待ち時間も少なく検査を受けたらすぐ帰宅するだけ。結果は1週間程度で自宅に郵送されるので気軽に健診できるシステムとなっています。検査メニューは以下の通りです。

まとめてセット6項目：2,000円

血糖：500円

貧血：500円

肝機能：500円

痛風：500円

腎機能：500円

脂質：500円

ピロリ菌：500円

心臓：1,500円

便潜血：1,500円



学生応援チケットを用意しています。20歳以下の学生さんは、病院窓口で学生証を提示してください。学生応援価格となります。

インボディ(体脂肪率等測定)：300円 筋肉量・脂肪量・体水分量でのボディーチェック

体脂肪率等測定とはInBodyS20を使用し、筋肉量・脂肪量・水分量と身体の組成がまるわかりになります。スポーツをしている方々には、日頃のトレーニングの成果も確認できますので便利です。検査結果はその場で説明配布しますので、これもまた気軽に受けられます。

※検査受付は、平日午前9時から午後4時までとなっております。



石井ちゃんが行く!? 「手軽に検査プチ健診」の受け方をご紹介!

① 清水町「ハーモニープラザ」へGO!



② 気になる項目を券売機で購入!



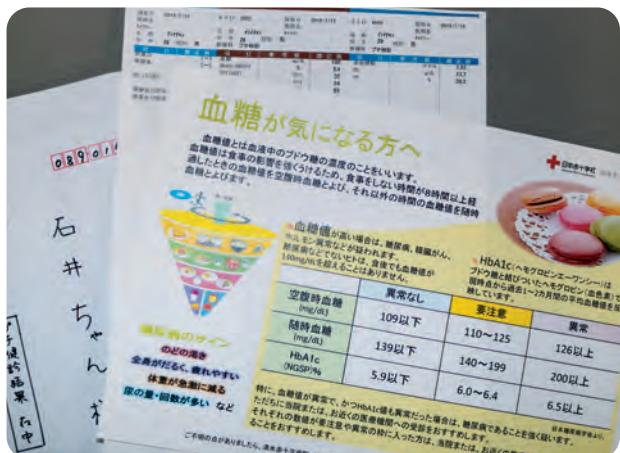
③ 病院の受付カウンターで申込書を記入!



④ 係の指示に従って各検査を実施!



⑤ 約1週間後検査結果が自宅に届きます!



透析送迎バスが新しくなりました

透析患者さんを“DOOR TO DOOR”で結ぶ送迎バスが2017年12月26日より新しくなりました。2005年より運行を開始した送迎ですが、現在は西十勝地区に加え星野リゾートトマム・十勝サホロリゾートに訪れる旅行透析患者さんの送迎にも対応しています。現在の送迎ルートは以下の通りです。

月・水・金 AM 新得町(屈足方面)・清水町
月・水・金 PM 送迎バス運休
火・木・土 AM 新得町・清水町
火・木・土 PM 清水町内及び御影方面
星野リゾートトマム 宿泊ホテルにて要予約
十勝サホロリゾート 宿泊ホテルにて要予約



ちょっと部署紹介～放射線技術課～

放射線技術課では現在3名が勤務しており、装備品は16列ヘリカルCT装置1台、X線TV装置1台、一般撮影装置1台、骨密度撮影装置1台、ポータブルX線撮影装置1台、眼底検査装置1台、エコー検査装置3台を保有し各種検査に使用しています。特に最近エコー検査が増加しており昨年度1,500件を超える検査数でした。この様に検査の増加、また人員より多い装置がありますので特に検査の多い際にはブッキングしてしまうとどうしても何れかの検査を止めてしまわざるを得ません。

また、当院は二次救急病院として放射線技術課も待機制度のなかで夜間休日対応をしていますが何らかの事情で病院到着まで時間が掛かる、などの事態もあるかもしれませんがその際にはどうぞ皆様、ご理解とご協力をお願いいたします。

最後に放射線技術課全力で頑張っていきますので今後ともよろしくお願ひいたします。



次回予告！

広報誌は年4回発行を目指しております。次号は4月の発行を予定しています。新年度採用職員の紹介や、厳冬期訓練・赤十字災害救護訓練の様子等をお伝えしたいと思います。

編 集 後 記

新年あけましておめでとうございます。

お陰様で、新年最初のペケレベツを発行することができました。いつも原稿寄与して戴いている皆様、ありがとうございます。

そして、編集長の中田さん・石井さんありがとうございます。(いつも原稿提出遅くて、本当にごめんなさい。)

広報委員になってもうすぐ一年。任期はあと一年ですが、また一年あっという間に過ぎることでしょう。毎年最初は思います。今年こそちゃんとやります！ (M・O)

